

ベルマーク新聞 10月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 〒530-8211 電話 06-6231-0131 ダイヤルイン 06-6201-8031 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>



てらうち
寺内 ゆうきさん
ラジオでベルマーク PR

お笑いコンビ「ランパンプス」のボケ役。小中高の教員と保育士の免許を持つ「教育芸人」。ひよんなことからベルマーク収集にはまり、財団も見学。ラジオの深夜番組などでPRしてくれました。千葉県出身。31歳。



くらみつ ようこ
倉光 陽子さん
豊橋市をあげてマーク収集に傾注

1000万点を目標に全市でベルマークを集めている愛知県豊橋市で、2016年4月の運動開始当初から教育委員会教育政策課主査として運動を担当。地元の出身で、市内の小中学校と企業、市民の架け橋となっています。



かまき なおみ
釜木 尚美さん
ツイッターでも発信中

大阪府摂津市立別府小の元図書司書。図書館を拠点に児童主体のベルマーク運動を展開。ベルマーク便りコンクールではユニークな発想と知識の深さで優秀賞を3度も受賞し、ツイッターでもベルマークのPRに努めています。



わきがわ まさゆき
脇川 雅之さん
全国の説明会を駆け巡って

協賛会社のラッキーベル(兵庫県神戸市長田区)営業部でベルマーク担当者。2012年に入社以降、全国の運動説明会に参加、「世代を超えた共通言語」としてベルマークの普及に携わってきました。明石市在住。6歳と3歳のお子さんがいます。

第2陣ベルマーク大使は わたしたちです！

「ベルマーク大使」の第2陣が決まりました。地域で地道な運動を続けている方や、ベルマークを商品に付けている協賛会社の方、芸能界で活躍されている方など、今回も多彩な顔ぶれです。2016年1月に発表した第1陣の7人の大使とともに、今後もベルマーク運動の発展のために一役買っていただきたいと思ひます。(2・3ページで新大使の活動を紹介しています)

いたさかななの
板坂 菜々乃さん



いたさかまなか
板坂 麻菜華さん



4姉妹で
鹿児島「推進の会」
共同代表に

18歳の三つ子と16歳の妹の4姉妹。中学生のとき被災地に行き、支援活動に興味を持ちました。6年前から会に参加、月に1回マークの仕分けをしています。平嶺光子さんに推薦されて、今年6月から共同代表になりました。活動の意義を広め、回収箱を設置してもらおうと、「営業」もします。最近はテレビやラジオへの出演依頼もきて、学業との両立で大忙しです。

いたさかまりな
板坂 菜梨菜さん



いたさか
板坂 ありささん



まえひらきょうこ
真栄平 京子さん
沖縄で運動の輪を広げる

那覇市立小緑小学校でPTA活動としてベルマーク運動を始め、毎年のように冷水機の購入を実現。子どもの卒業後も同校を拠点に活動しつつ、近隣の学校からの要請にもこたえるなど、運動の輪を広げるために尽力しています。

大使 第1陣のみなさんも大活躍中



かなすぎ やすぞう
金杉 恭三さん
あいおいニッセイ同和
損害保険社長



こじま かなえ
小島 香奈恵さん
神戸市立魚崎小学校
PTAベルマーク委員長



さんだ やすこ
三田 靖子さん
仕分けボランティア
グループ火曜会会長



はたの たい
幡野 たいさん
山梨・上野原小学校
マーク仕分け半世紀



ひらみ みつこ
平嶺 光子さん
かごしまベルマーク
運動推進の会前代表



まつした ゆめ
松下 友要さん
中野学園オイスカ高校
奉仕活動委員長



まつもと あきら
松本 哲さん
ジブラルタ生命保険
執行役員

※オイスカ高校の委員長はこの秋に澤根日向さんから松下友要さんに引き継がれました。魚崎小学校PTAの委員長は今年4月に友国美加さんから小島香奈恵さんに引き継がれました。

購入額の1割が援助資金に／ガイド後期号発行

ベルマーク預金で買える品物を集めた「お買いものガイド」の2018後期号がこのほど完成しました。10月下旬までには各学校にお届けします。

ベルマーク預金で買いものをする、商品を提供する協力会社を通して購入額

の1割がへき地校や災害被災校などへの援助資金に回ります。自分の学校の備品を充実させることが、ハンディのある学校への支援につながるのです。

ここ数年は年間購入総額が約5億円で推移しており、毎年5000万円の援助

資金が生まれています。「お買いものガイド」が届いたら、さっそく必要な備品の購入をご検討いただければ。ガイドに載っていない商品も買うことができますので、各協力会社かベルマーク財団にお問い合わせください。



新ベルマーク大使「運命的」「楽しく」「正確な情報」「未来へ」

寺内ゆうきさん

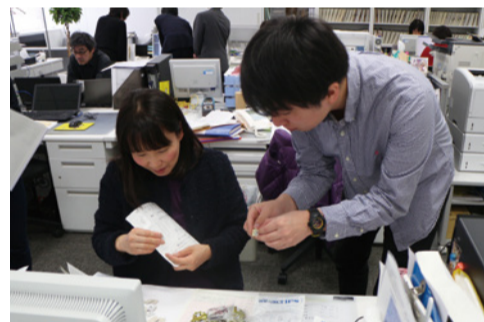
「最近、ファミマの近くに引っ越したんです。マークを集める態勢がばっちり整いました!」。開口一番、ベルマークネタで笑わせてくれました。

今年1月、担当するラジオの深夜番組でベルマーク収集を宣言。大分の小学生らが約1トンものアルミ缶を集めた、



という話題に刺激され、「自分も何かを集めよう」と考えた時に浮かんだのが、ベルマークでした。

10万点で憧れのトロンボーンを購入する計画でしたが、1人では膨大な時間がかかるうえ、個人では預金化できないことを知り、集めた分は被災地支援のため財団へ寄付しました。大なる勘違いをしていたものの、収集や財団の見学などを通じて様々な発見があり、ベルマークとの出会いに「運命的なもの」を感じたそうです。



「いろんな種類の商品にマークがついていることが意外で、宝探しのような楽しさがあった。切って貼る作業も、普段はする機会がないので工作的な面白さがある」。家族や学校、地域で取り組めば、人と人をつなぐ「コミュニケーションツール」にもなる、と言います。

ベルマーク預金で商品を購入すると価格の1割がへき地校などの支援に回ることも初めて知りました。一番驚いたのは、毎年17億円前後の預金が使われなまま繰り越されていることでした。

小中高の教員と保育士の免許を持つことから、教育ネタを織り交ぜた漫才も披露しています。相方の小林良行さんと、保育人材の育成や定着を支援する東京都の「とうきょうホイクマン」としても活躍。保育所を飛び回っています。

「ベルマークについても、まずは興味と関心を持ってもらうことが大切。ぼくの存在がそのきっかけになれば」「マーク集めだけでなく、使うこともPRしたい。使い道を知れば、集めることへの興味もさらにわくと思うんです」

ベルマークを題材にした漫才を作ったり、へき地の学校へ授業をしに行ったり。教育芸人兼大使として、いろんなことにチャレンジして運動を盛り上げたい、と夢を膨らませています。

倉光陽子さん

「どの商品にベルマークがついているのか知るところから、新鮮な気持ちでスタートしました」。豊橋市がベルマーク収集を開始した2016年4月、倉光さんも教育委員会に異動してすぐにベルマーク担当になり、まさに手探り状態で活動がはじまりました。

市役所の各課に回収箱を設置するほか、商工会議所を通じてマークやカートリッジを集めてくれる企業を募り、現在では162社(支店含む)が応援企業として登録しています。企業が集めたカートリッジは連絡がくると学校用務員が取りに行き、市役所に届けてもらう仕組みも確立しました。



市内の小中学校の設備をより充実させるために始められた活動でしたが、当初は市内のベルマーク参加校が半数にも満たない状態でした。校長会を通じて参加登録を呼びかけるとともに、毎年5・6月に行われるベルマーク運動説明会で、豊橋会場の発表者として収集をよびかけたり、広報誌「PTAとよはし」でベルマーク特集を組むなど、さまざまな方法で認知度を上げていきました。

同時に学校の負担を減らすため、「くすのき特別支援学校」と「庁内障害者ワークステーションわくわく」でマークを仕分け・集計する仕組みを軌道に乗せました。その結果、開始から2年半で240万点余りが集まりました。

「日常生活でベルマークに気づかず捨ててしまうのはとても残念なこと。市の活動がベルマーク運動を知ってもらうきっかけになれば」と倉光さん。毎年10月に開かれる「豊橋まつり」でもPRブースを出展、クイズやベルマーク商品の展示などを通じて大勢の来場者に収集を呼びかけています。

「必ずベルマーク付き商品を買わなければと縛られるのではなく、マークを見つけたら切って楽しく集める。それが5年後、10年後の未来を変えていくのだと思います」。

豊橋市の目標点数は「1000万点」。今後はテトラパック回収など新しいことにも挑戦しながら、地道にコツコツ続け、息の長い活動にしていきたいと意気込みを語ってくれました。

釜木尚美さん

大阪府摂津市立別府小で図書司書をしていた2010年、学校でインクカートリッジや石鹸のベルマークがたくさん集まることに気づき、本を買おうと、休眠状態だったベルマーク運動を復活させました。図書館に回収箱を置くと、子どもたちがマークを持ってきて、仕分けも手伝ってくれるようになりました。

任期満了で学校を去った13年以上も児童との共同作業は続き、昨年は過去最高の2万3100点、今年も1万3千点ほどが集まりました。

子ども主体の活動だけでなく、年1回発行するベルマーク便りもユニークです。昨年は「1年中見てもらえるものを」とカレンダーを作成。1年365日をベルマーク商品にちなんだ記念日にしてイラスト付きで紹介する内容で、コンクールで3度目の優秀賞に輝きました。

仕分け・集計の効率化、省力化にも工夫を重ねてきました。今年の神戸のベルマーク運動説明会では「切らない」「貼らない」の自らの実践を発表し、反響を呼びました。

「ベル・ブック」「ベルゾンなおみ」の名でツイッターでもベルマークをPRしています。マークの仕分けで悩むつぶやきを見つくと、すかさずアドバイス。「おせっかいおばさんですが、集めたマークは活用してほしいから」



かつては「ベルマークは非効率的」と感じる一人でした。でも、12年前、中越地震で被災した新潟県の学校へ財団が温風機を贈ったことを伝える記事と子らの笑顔の写真を見て、「ベルマークは子どもも気軽に参加できる社会貢献活動」と考えるようになりました。

ベルマークに否定的な意見をネットなどで目にするたびに、「正確な情報を伝えたい」との思いを強くします。そして、ベルマークがお母さんらの運動とみられがちな現状を残念がります。

「家族や地域のみみんなで取り組めるのがベルマークの良さ。説明会を土日にも開いて様々な人が参加できるようにしてほしい」と訴えます。「説明会でベルマーク商品の試食会のようなものも企画すれば、参加者も増えますよ」とも。

「一人でも多くの人に、ベルマーク集めは楽しくやれるということに気づいていただきたい。そのために頑張ります」

脇川雅之さん

「ベルマークが未来の子どもたちにとって欠かせないものになって欲しい」と話す脇川さん。毎年、ベルマーク運動説明会では多くの会場に参加し、発表校や他の協賛会社の話を熱心に聞く姿が印象的でした。「会場で聞いたさまざまな事例やアンケートに記入して頂いたご意見を、他の会場や学校訪問時にフィードバックできるように心がけてきました」。今後は大使同士で情報を共有し、お互いの活動や新たなアイデアを全国に伝えていきたいそうです。

ベルマーク大使としてまず取り組みたいのは「豊橋市の事例を全国に広げること」。特別支援学校の授業にマーク仕分けを取り入れるのは、PTA活動が難しくなってきた今の時代にマッチしており、特別支援学校と各学校、各市町村いづれにとっても有益な関係になれると考えています。「老人介護施設で集めているところもあり、ベルマークは世代を超えた共通言語になります。その魅力を伝えていきたい」といいます。

子供の頃からベルマークは身近な存在だったそうで、「点数が高いベルマークを見つけると嬉しくて、友達と競って集めていました」。

2006年、ワールドカップ観戦のために世界一周を旅した経験も、社会貢献への意識を高めるきっかけになりました。大勢の人と知り合って貧富の差を目の当たりにし、日本の豊かさを実感しました。その後、ラッキーベルに入社して被災地へ靴の寄贈なども行うなか、国内での経済格差にも気づき、さらにできる事があるのでは、と考えたそうです。「当事者意識を持って集めていく必要がある」と、社内でのマーク収集やウェブベルマークの活用にも力を入れていきたいと語って



くれました。お子さんの通う幼稚園でもベルマークを集めており、「ベルマークを通じてすべての子どもたちが豊かな生活が出来るよう、ベルマークがあつてよかったと思われるように、大使として一端を担っていきたい」とやる気に溢れています。

「ベルマークの事なら脇川さんに聞けば分かると思っていただけのように、これから頑張ります」

「若さで」「続ける」新ベルマーク大使

板坂菜々乃さん、麻菜華さん、 茉梨菜さん、ありささん

9月某日、三つ子の“営業”活動に同行しました(4女ありささんは学校のため欠席)。大使の平嶺光子さんと、お母さまの朋子さんの運転で、市内の企業や団体を訪ねました。



集合は8時45分、スーツや制服を着て準備はばっちり。まずは鹿児島市教育委員会の教育長・杉元羊一さんを訪問しました。大使の松本哲さんに作ってもらった名刺と資料を渡し、「テレビでがれきの山を見ることは減っていただけ、現地は地震直後と変わらない景色だった。現地の人に『来てくれただけで嬉しい、それを伝えることもボランティア』と言われてその重要性に気付いた」と語った茉梨菜さん。

銀行2カ所では、回収箱設置をお願いしました。もし支店にもご協力いただけたら更なる広がりが期待できます。

いつもの活動場所、ボランティアセンターの所長・窪園達一さんにも会いに行きました。窪園さんは「一番力を入れていきたいのは若い世代。小中高校生に比べて、短大生や大学生とはつながりが希薄な部分があるから4人の活動に期待している」と話しました。

午後にはNHK鹿児島放送局の取材を受けました。カメラを前に作戦会議をしながら、納得のいくまでこだわりました。



鹿児島県庁や生涯学習施設にも出向き、終わったのは17時頃。充実した一日を過ごしました。

平嶺さんは「自分の分身が出来たよう。姉妹が代表となって、人とのつながりの幅が広がった」と喜んでます。

『切り取る瞬間から被災地支援が出来る』が活動のモットーですと菜々乃さん。遠く離れた鹿児島からでも支援できることにやりがいを感じています。今後の目標を「鹿児島市民1人1点と考えて、60万点を目指すことです。単に集めるだけではなくベルマーク運動の魅力も知ってもらえるように頑張ります」と麻菜華さん。

「ベルマークを捨てるのは、1円玉を捨てるのと同じ」。1枚1枚の価値をそう考えています。現地を見た経験があるからこそその重みのある言葉でした。

真栄平京子さん

まだ真夏を思わせる日差しのある午前。那覇市立小緑小学校(濱崎雅彦校長)のプレハブ校舎の一室で、PTAのベルマーク委員が仕分け作業をしています。その中に真栄平京子さんの姿がありました。

長年ベルマーク委員長をつとめ、協賛会社のラッキーベルやショウワノートの販路を学校に作り、様々なキャンペーンにも参加。学校のために毎年のように冷水機を購入してきました。2人のお子さんが卒業した後も「すべての子どもたちの役に立ちたい」と、引き続き同校を拠点にベルマーク運動を続けています。



数年前、真栄平さんはベルマーク運動の仲間の委員宅を訪れていた時に、くも膜下出血で倒れてしまったそうです。すぐに病院に運ばれて一命をとりとめましたが、「子どもは学校だし、家にいる時だったら助からなかったかも」。今でもMRI診察を続けているそうで、「ベルマークに救われたようなものです」と真栄平さん。

この日は午後から、いま下のお子さんが通う同市立金城中学校へ。3年前の生徒会長選挙で「ベルマークを集めて冷水機を買う」を公約に掲げた生徒が当選しましたが、当時の同校はベルマーク預金がゼロ。協力を頼まれた真栄平さんはインクカートリッジを大量に集め、さらに「これだけでは足りない」と、独自に制服のリサイクル販売を始めました。その売り上げ2万3千円を寄付しに来たのです。



たまったベルマーク預金に制服リサイクルの売り上げを足せば、冷水機が買えます。「もし余ったら、学校で飼っているウサギのエサ代に」。受け取った喜屋武浩司校長は「ありがとうございます、みんな喜ぶでしょう。ベルマークで買ったことをちゃんと掲示します」と、さっそく注文書に校長印を押していました。

真栄平さんのお子さんは来春卒業だそうです。「その前に冷水機購入を実現できて良かった」。子どもたちは次々と巣立っていきますが、「これからもできるだけずっとベルマークの活動を続けたい」と真栄平さんは話してくれました。

播磨灘の島で一輪車講習会

姫路市立坊勢小で日教弘

兵庫県の姫路港から定期船に乗り込むと、30分ほどで播磨灘に浮かぶ坊勢島(ぼうぜじま)に着きました。秋空の広がった9月11日、人口2,100人余り、漁業を主な生業とするこの島の姫路市立坊勢小学校が、今回の「一輪車講習会」の舞台です。

主催したのは、学校の先生たちがつくる公益財団法人・日本教育公務員弘済会(日教弘)。今年5月～10月に岐阜、鹿児島、岩手、福島、兵庫、愛媛の6県で9回の講習会を開いています。

インストラクターの鈴木奈菜さん、須郷真弥さんは、国際一輪車競技大会で優勝経験を持つ元トップ選手で、体育館に集まった全校児童128人を前に華麗なスピンやペア演技を披露。「ワーッ」と驚きの声と拍手がわき起こりました。

校庭に場所を移し、4年生20人への実技指導が始まりました。全員が初心者です。「姿勢をよくして」「土踏まずじゃなくて、つま先をペダルに載せて」。最初は手すり代わりに鉄棒にしがみつ



いた子どもたちも、1時間半の講習を終えるころにはメキメキ上達。鉄棒に片手を添える程度でスイスイと進める子もいました。

池田湊斗(みなと)くんは「前に進むのはまだ少し難しいけど、ちょっと乗れるようになった」と目を輝かせ、荒木心那(ここな)さんは「最初は不安だったけど、楽しくできた。次の日曜日に友だちと『練習しよう』と約束しました」と話してくれました。

坊勢小には、学年全員が一度に使えるだけの台数の一輪車があって、校庭の端には平行棒のような練習用手すりも完備



しています。高坂英樹校長は「教えられる教諭がないので活用できていなかった。練習用手すりの辺りも草ぼうぼうで、4月以降、私が3回も草刈りをしました。今後はきっと、雑草も育たぬほど轍(わだち)の目立つ練習場に大変しますよ」とうれしそうでした。

クモといえば「8!」

糸魚川・根知小で「クモ教室」

クモって、ホントはいいヤツだったんだ!——。新潟県糸魚川市立根知小学校(田中敦校長)で9月13日、とかく嫌われがちなクモに親しむ出前授業が開かれました。ベルマーク財団の地校支援「理科実験教室」の一つです。全校児童40人の前で「奈良市から来たスパイダーマンです」と自己紹介したのは、日本蜘蛛学会員のせきねみきおさん。全国各地でクモ観察会を開いているそうです。

一昨年暮れの大火からの復興が今も続く糸魚川駅前を通り、バスで約40分。せきねさんは朝8時過ぎに根知小に着き、まずは軒下や茂みなどで、しらみつぶしにクモを探しますが見当たりません。開始時間が迫る中、校庭を囲む潤れた側溝にたくさんのナガコガネグモを見つけ、ひと安心しました。

授業の最初はクモの「絵描き歌」。「クモといえばハチー!」と、せきねさんの愉快な声が響きます。クモの体は頭とお腹に分かれ、○を二つ重ねた8の字の形。足は8本、目も八つ。説明を交えながらどんどんクモの絵が出来ていきます。「クモの天敵は?」と尋ねると、子どもたちは「トリー!」「そう、鳥だね。でも他にもいるんだよ。それは蜂。オチが付



いたところでクモの絵も完成しました。

続いてクモの網の標本作りに挑戦。まずは小枝などでつついて主に退去願ひ、白いペイントと液体糊をスプレーで吹きかけ、紺色のケント紙を当てて貼りつけます。仕上げにラッカーをスプレーして固定すれば出来上がり。最初はおっかなびっくりだった子どもたちも、しばらくすると夢中に。「そっちの網の方がカッコいい」「あ、切れた」「クモが逃げてくれない」……。子どもたちが捕まえたクモの名前は、せきねさんが瞬時に言



い当てます。「さすがスパイダーマン」と先生や保護者もびっくり。名前が分ればクモは逃がします。

最後は体育館で映像を使ったクモの話あれこれ。松尾颯くん(5年)は、「いろんなクモの名前が分かって面白かった。側溝にあんなにクモがいるなんて、今日まで全然知らなかった。また網の標本作りたい。すっかりクモが身近になったようでした。」

工場はここだけ！ショウワノート高岡本社工場を見学

🚩 ジャポニカ学習帳の秘密を大公開



(写真左上)タイムトンネルを見学する子どもたち
(写真右上)ドラえもんが工場の目印
(写真中央)工場の隣にあるおとぎの森公園にある等身大ドラえもん像
(写真右下)板紙とロール紙

富山県高岡市にある協賛会社のショウワノート（ベルマーク番号53）の本社工場を9月に訪問しました。創業70周年の記念事業として今年5月に完成した新工場では、1970年の発売以来愛され続けているジャポニカ学習帳の製造ラインを見学することができます。

高岡駅から車で10分、遠くに大きなドラえもんが見えてきました。作者の藤子・F・不二雄氏が富山県出身なことにちなみ、前工場時代から壁にドラえもんが描かれていました。工場のある北陸新幹線沿線は条例で屋外広告物が規制されましたが、近隣住民の残したいという熱い要望が伝わり、ガラス面の内側に絵を入れる方法が残ったそうです。

同社の工場はここですべての製品を製造。ジャポニカ学習帳だけで1日4万～4万5千冊も製本します。約60人が勤務し、繁忙期は24時間稼働する場合

もあるそうです。企画部東京販売企画の原田英彦さんと、事業戦略室産業観光課副主任の山本飛鳥さんに案内していただきました。

はじめに、工場の成り立ちやノートの工程をビデオで学びます。ジャポニカ学習帳は書いたり消したりしやすいよう頑丈に加工された特注の紙を使い、罫も目が疲れにくい色だそうです。

ジャポニカ学習帳といえば昆虫や花が目目を引く表紙ですが、これは1978年の「世界特写シリーズ」開始以来、すべて昆虫植物写真家の山口進さんが撮影しています。写真一枚一枚に、子どもたちに自然を愛する心を育んでもらいたいという願いがこめられています。

製造ラインでは、まずノートのもとになる「原紙」を間近で観察。ロール紙と板紙の2種類があり、ロール紙は直径

1m27cm、重さ700kgと、すごい迫力です。伸ばすと長さ13kmにも。「これひとつでノート7200冊分です。1時間に1本は消費するんですよ」と山本さん。

その紙に水性インクでオフセット印刷します。シアン、マゼンダ、イエロー、ブラックの基本色と「特色」のグリーンを用いて1分間に最大130枚印刷します。ノートの形に裁断したら真ん中を糸綴じ製本して完成。強度の強い「二重かがり綴じ」です。

製品は20冊ごとに抜き取り検査をし、10冊ずつに分けて包装します。手の感覚だけで10冊がわかる熟練した社員も多いそうです。最後に160冊ずつ段ボールに詰めていきます。切れ端など紙片はすべて、工場内に張り巡らされているパイプで掃除機のように吸い上げ、裁落室（さいらくしつ）に集められて新聞や包装紙などにリサイクルされます。

工場内には学習帳の歴史やこだわりを示した展示コーナーも。見学者に大人気なのは「タイムトンネル」で、学習帳の表紙611枚が壁や天井に所狭しと使われて圧巻です。「年に160種類もの絵柄を発売しており、全部で2000種類以上あるので、これでもごく一部なんですよ」と原田さん。

他にキャラクターグッズのPOMMOP（ポンモップ）シリーズ、大相撲で同社が出した懸賞幕なども見る事ができます。見学は、県内の小中学生のほかにもメーカーや地元の商工会議所などからも申し込みがあるそうです。原田さんは、「まだ始まったばかりですが、工場見学が県の観光名所の一つになれるよう盛り上げていきたい」と意気込みを語っています。

ショウワノート高岡工場の見学の詳細は同社HPをご覧ください。

ギフトショーに協賛会社が出展

🚩 クレハ、ブラザー販売

「日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市」といわれる「第86回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2018」が9月、東京ビッグサイトで開かれました。ベルマークの協賛会社もブースを出していると聞き、取材にいきました。

出店社数は海外16の国と地域を含めて2,253社。ビジネスチャンス求めて延べ18万人が来場したという催しで、会場は多くの人でにぎわっていました。その一角に、ブラザー販売（ベルマーク番号28）のブースがありました。



展示していたのは、業務用刺しゅうマシンやカッティングマシン、ガーメントプリンター（衣類にプリントできるプリンター）。家庭などで使われているプリンター類とはスケールが違いました。



ガーメントプリンター「GTX」のスイッチを入れると、なんと数分でTシャツに鮮やかなプリントがあらわれます。プリントしたての生地を触っても、手にインクが付きません。カッティングマシン「スキャンカット」は、紙のみならず、布や革、キャンバス地までカットできるそうです。並べられていたフェルトは繊

細な模様でなめらかにカットされていました。

東京ビッグサイトの違うホールでは「第58回プレミアム・インセンティブショー秋2018」が同時開催されていました。こちらは販売促進や広報担当者を対象に、ノベルティグッズやPOPなどの商材を展示するイベントで、やはりベルマーク協賛会社のクレハ（ベルマーク番号10）がブースを出していました。



そこで展示されていたのは、片手でも使える袋用クリップ「パチック」やノベルティ用商品の見本、カタログなど。「パ

チック」の優れているところは、電子レンジでも冷凍庫でも使えること。市販品はS・M・Lの3つのサイズがあり、用途に応じて使い分けられます。一方、カタログを見てみると、おなじみの「NEWクレクラブ」と「キチントさん」シリーズの家庭用品がいっぱい。一部の商品は、贈答用に名入れやオリジナルパッケージを作ることも出来るそうです。実際にノベルティとして大人気だったという電車のパッケージも展示されていました。

いずれも、日々のベルマーク運動では見かけない商品の展示・実演で、各社の商品の幅広さを感じられるイベントでした。



包括連携協定を結んで地域を応援

あいおいニッセイ同和損保が豊橋市と

「地域密着」を行動指針に掲げている協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険(ベルマーク番号 92)は、2016年から地方創生プロジェクトを立ち上げています。高齢者に優しいまちづくりや農業振興など、自治体が直面する様々な課題に対するサポートをするため、これまでに約170の自治体と協定を締結しました。ベルマーク運動も、こうした貢献活動の一つです。

同社の三河支店は6月8日に愛知県の豊橋市と包括連携協定を結びました。人口40万人の豊橋市には外国人が2万人いて、その約半数がブラジル人です。

三河支店豊橋支社にも7人のブラジル人社員が働いており、市内に暮らす外国人向けの交通セミナーや日本語教室を開催しています。その他、ブラインドサッカーの選手を招くユニバーサルマナーセミナーや多文化共生セミナーなど、保険会社ならではのノウハウを生かした支援を進めています。

市が進めているベルマーク活動への応援も始めました。支店の社員70人をはじめ、ベルマークサポーターに登録している代理店や団体などに6月から回収を呼びかけ、すでに100ヶ所ほどにオリジナル回収箱やポスター、ベルマーク一覧表を配布しています。10月21日に開かれる豊橋まつりのベルマークブースにも参加し、当日マークを持参してくれた人に景品を渡す予定で、集まったマークはすべて豊橋市に寄贈します。

同社では営損一体(商品売る営業と事故対応にあたる損害サービスの一体化)を目指しており、お互いの業務を知る際にもベルマークは役立っているといいます。中部損害サービス第一部豊橋サービスセンター所長の若狭弘幸さんは「ベルマークの話題がきっかけでお客様との会話が和やかになる事もあり、弊社にと

ってベルマークは欠かせない存在です。無理に集めるのではなく、捨ててしまうマークを少しでも減らしていきたい」と話しました。

豊橋支社長の鳥居大輔さんは「豊橋市は市内の小中学校の教育設備を向上させるため1000万点という高い目標を掲げているので、出来る限り協力したい。お客様にとっても、地元へ貢献できるという意識は大きいと実感しています」と熱意を語りました。



(左から)三河支店豊橋モーター開発課課長の中西寛之さん、三河支店豊橋支社社長の鳥居大輔さん、中部損害サービス第一部豊橋サービスセンター所長の若狭弘幸さん



協定書を手にする上島充弘三河支店長(左)と佐原光一豊橋市長

豊橋市のマーク、仕分けます

市内障害者ワークステーション わくわく

愛知県豊橋市の市役所内にある「市内障害者ワークステーション わくわく」が今年4月から、市が集めたベルマークの仕分けを開始しました。

わくわくでは、スタッフ6人と市の職員である支援員2人が各部署から依頼される書類の印刷や製本、通知文の封入、執務室などの清掃、データ入力など幅広い事務、作業をしています。市がベ

ルマーク運動を開始した2016年からインクカートリッジを仕分けてきましたが、開始から2年が経ち新たにベルマークの整理・集計も業務に取り入れることになりました。

3ヶ月に一度、教育政策課から袋いっぱいマークを預かって作業します。スタッフの金折さんは「種類が多くて分けるのが大変ですが、集まる量が多い会社はまとめて数えるなど工夫しています」。市内162の応援企業からも沢山のマークが届き、何時間も集中して作業する日もあるそうです。

支援員を務める豊橋市総務部人事課の森敬司さんは、「小さいマークがあったり、扇風機の風で飛びそうになったり根気がある作業なので、期間を決めてスタッフ総出で頑張っています。一生懸命やっていると段々やみつきになりますね」と話しました。

わくわくで仕分けたマークは3000点ずつ市内の小中学校に配布し、設備助成に役立っています。



J1 コンサドーレで本の寄贈

ホームゲームでマーク集め大型絵本を6団体に

今期サッカーJ1リーグ上位で健闘している北海道コンサドーレ札幌のクラブハウス屋上で9月19日、ベルマークで購入した本の贈呈式がありました。コンサドーレのホームゲームの際に、来場者から集めたマークで買った本です。

本を贈ったのは、JAグループ北海道・株式会社コンサドーレ・北海道教育大学・北海道教育委員会の4者。地元の将来を担う子どもたちの成長を支援するため2011年度に相互協力協定を結び、「学力や体力の向上」「食育」などへの取組を始めました。2014年度からは札幌ドームで行われるコンサドーレの試合にブースを出してベルマーク収集の呼びかけを開始。北海道庁などにも収集箱を置き、昨年度末までの4年間で18万点近くを集めました。

本の寄贈先は、読み聞かせなど子どもの読書活動に関わっている道内の団体から公募。15団体が応募し、4者による厳正な審査の結果、6団体へ大型絵本の寄贈が決まりました。贈呈式には北海道コンサドーレ札幌の宮澤裕樹選手、進藤亮



佑選手、それに人気のクラブマスコット、ドーレくんも出席しました。宮澤選手は「今後も北海道の子どもたちのために読書推進の活動を続けてください」とあいさつ。本を受け取った団体側は「これからも頑張ります」とこたえていました。

札幌ドームでのマーク収集は、5年目となる今年度も続けられました。毎回マークを持参してくる年配の女性もいるなど、好調なチーム成績を追い風に、集まるマークの数も増えているようです。教育庁生涯学習課社会教育・読書推進グループの木幡淳史さんは「その分で年度内にもう1回、贈呈を計画したいです」と話していました。

ジョイセフが寄付募集

ベルマーク財団の「友愛援助」対象事業の一つ、「アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動」を実施している公益財団法人ジョイセフは、西日本豪雨で被災した女性や母子を支援するため、助産師を始めとする関係者と連携した活動を実施しており、そのための寄付を募集しています。クレジットカードや銀行振込、また「Yahoo! ネット募金」を通じてTポイントで1円(1ポイント)から寄付することもできます。詳しくはジョイセフのHPをご覧ください。

ウェブベル、店が3倍増!

ウェブベルマークのホームページが9月にリニューアルされ、買い物ができるショップ数が従来の約40から、出前授業も含めて129へと大幅に増えました。グルメ・ファッション・旅行など買い物の種類によってショップを探す検索機能も付いています。また、買い物額のうち、支援に回る金額の比率も変更されました。ショップの紹介画面では、購入額の何%が自分の指定した学校に入り、何%が被災校支援に回るのかが個別に明示されています。

大台達成校

9月		町田第一小	
綾瀬小	東京都足立区	8,009,171	東京都町田市
池上小	神奈川県横須賀市	8,044,609	東京都大田区
幸町小	千葉県美浜区	7,026,031	大阪府豊中市
春山小	福井市	6,000,320	松山市
杉妻小	福島市	5,002,857	札幌市西区
緑が丘小	宇都宮市	5,015,813	神奈川県海老名市
鳥山北小	東京都世田谷区	5,020,314	徳蔵寺保育園
川越第一小	埼玉県川越市	4,020,732	大阪市東淀川区
野々市小	石川県野々市市	4,012,413	白岡市立西小
加古川小	兵庫県加古川市	4,037,634	埼玉県白岡市
大殿小	山口市	4,007,119	四和小
黒沢尻東小	岩手県北上市	3,012,502	千葉県四街道市
行健小	福島県郡山市	3,022,577	向山小
泉が丘小	栃木県宇都宮市	3,020,755	東京都練馬区
町田第四小	東京都町田市	3,004,220	南鶴牧小
			東京都多摩市
			中野小
			相模原市緑区
			東部中
			愛知県春日井市
			星陵台中
			神戸市垂水区
			高森中央小
			熊本県高森町

読んでみたい本 児童文学評論家・藤田のぼる

絵本

『じめんのしたにはなにがある』

(中川ひろたか・文、山本孝・絵、アリス館)

お母さんにもう遊ばなくなったミニカーを捨てなさいと言われたくぼく。大人になったらお宝として掘り出そうと、箱に入れて土中に埋めます。地面の下にはいったい何があるんだろう?と考える。ここからは科学絵本のような細密さと、どんどん広がるくぼくの妄想(?)が不思議に重なって、独特の世界を形成していきます。こういう絵本は、あまり本好きでない子に勧めても、きっと大丈夫でしょう。(低・中学年から、1400円+税)



『つくえはつくえ』

(五味太郎・作、偕成社)

男の子の前にある物が山積み。小さな机。「なんだかつくえせまいきがする」とあります。隣で父親らしき男の「きがするんじゃない。せまいのだ」「ひろいつくえをつくってやろう!」という台詞。そして、見開き一杯の広い机。あまりに広いので、いろんな子たちが机の上に集まっています。絵本『てぶくろ』と『おおきなおおきなおいも』を掛け合わせたようなおもしろさといったら説明になるのでしょうか。でも、机は机なのです。(低学年から、1200円+税)



『小学生まじよとまほうのくつ』

(中島和子・作、秋里信子・絵、金の星社)

1年生のリリコが遠足の前の夜、玄関のげた箱の中からガタゴトと音がします。中で古い木箱が動いていたのです。開けてみると、出てきたのは先のとんがった黒い靴。おばあちゃんがリリコのためにしまっておいた靴のようです。おばあちゃんは魔女なのですが、お母さんはリリコが魔女になることに反対しています。次の日、お母さんには内緒でこの靴をはいて出かけたリリコ……。こういう母親と祖母の関係性、実は今の子どもにとっては結構リアルなのではないでしょうか。シリーズ第5作ですが、初めてでも充分楽しめます。(低学年向き、1200円+税)



てきたのでした。ということで、この作品は小学生二人が織りなすいわばロードムービーなのですが、旅の途中で出会うさまざまな人たちとのやりとり、そして二人がそれぞれの「訳」を次第に明かす展開が絶妙で、思わず引き込まれていきます。二人の6年生の造型がとても等身大な感じで、読んでいて二人を応援したくなる物語でした。(高学年以上向き、1500円+税)

『ぼくがスカートをはく日』

(エイミ・ポロンスキー・作、西田佳子・訳、学研プラス)

タイトルで見当がつくように、LGBTの「少年」を主人公にした物語。こうした題材はすでにいくつか書かれていますが、ここまで正面から取り上げたか



という、やはり驚きがありました。主人公は、12歳となりいよいよ心と体のアンバランスに悩むグレイソン。転機は、文化祭で演じられる劇のオーディションへの参加でした。ギリシャ神話を元にした劇で、グレイソンは女神ペルセポネ役に挑むのです。幼いころ両親が交通事故で亡くなり、グレイソンはおじさんに引き取られたのですが(この設定も、物語のラストに大きく関わってきます)、特別におばさんは、グレイソンが女性役を演じることで予想される周囲との軋轢を考え、翻意を促します。果たして、事態はPTAを巻き込み、劇を指導する先生の進退にも関わっていきます。ある意味、日本以上に「男女」意識の強いアメリカという国で、「自分は誰なのか」という問いに真摯に向き合うグレイソンの姿が胸を打ちます。(高学年・中学生以上向き、1500円+税)

低・中学年向け

『秘密基地のつくりかた教えます』

(那須正幹・作、黒須高嶺・絵、ポプラ社)

4年生の保は、学校の帰りに隣のクラスの省吾から声をかけられます。乱暴だという評判の省吾ですが、意外にも子ネコを隠れて飼っていて、保に育て方を聞きたいというのです。二人で協力して資材置き場のコンクリートパイプの中で育てることにし、一度ネコと一緒に泊まりたいという省吾のために、お互いの家に泊まるという口実で、パイプの中で一晩を過ごします。これに味をしめた二人は、彼らの秘密に気づいた保の兄ちゃんの手助けも得て、今度は裏山に秘密基地を作ろうと、小屋作りに取りかかります。「ズッコケ三人組」シリーズの作者からの「秘密基地の勧め」、今の子どもたちはどう受けとめるでしょうか。(中・高学年向き、1300円+税)



高学年・中学生向け

『冒険は月曜の朝』

(荒木せいお・作、タムラフキコ・絵、新日本出版社)

ある月曜日の朝、都内から河口湖方面に向かう電車に乗っている二人の6年生。土曜日の音楽会の振替休日なのですが、平日に小学生が男女で一緒だと怪しまれるので、「兄妹ということにしよう」と提案する風花。実際この二人はカップルなどではなく、若いおばさんがいる河口湖近くのおばあちゃんの家を訪ねようとしている風花が、電車に詳しい賛晴(さんせい)に道案内を頼んだのでした。但し、二人とも訳あって家族には無断で出



ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト (敬称略)

〈震災寄贈〉8月21日～9月20日

▼岩手県 あこおぎ子ども広場▼山形県 佐藤綾音▼茨城県 井澤直人▼栃木県 小島由香 滝田ますみ▼群馬県 稲村千佳子 武士恵美▼埼玉県 M-G T会一同 玉手直美 富山一成 桑形朋子 松崎いづみ▼千葉県 阿部真也 多田直子 吉野君枝 関田元子 高橋香葉 宮下忍 匿名希望▼東京都 小寺洋子 住友不動産建物サービス(株) パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) J-MOT首都圏 大野朋子 小林晃 長南里美 日本基督教団小金井緑町教会 水野美子 JYJへの愛をささやく 井上恵里子 (株)アイザワビルサービス 品川薫 塚原竹光 鶴山英己 水谷恭仁子▼神奈川県 坂巻順子 鈴木智子 鶴谷裕子 田中宏 谷城文康 カープス小田原&栢山 社会福祉法人緑成会 田中綾子▼新潟県 伊藤康子▼石川県 市原マリコ 北西紅美▼岐阜県 菊本ます美 篠田麻由美、美伯 井貝未奈▼静岡県 島中将也▼愛知県 NTT西日本東海事業本部

長江政則 (旬東海スポーツフィールド)▼滋賀県 三菱ケミカル(株)滋賀事業所▼京都府 岩井みちる 野田美奈子▼大阪府 吉永夏子 奥田豊 阪和(株)南大阪営業所▼兵庫県 小林その代 絵かきやJUN 竹内 コーポEARTHくらぶ 北鈴ラッキーノース▼岡山県 NPO法人玉島たんぼぼ▼広島県 塩野義製薬労働組合中四国支部▼香川県 四国労働金庫労働組合 大浦奈央▼福岡県 根井久美子▼大分県 朝日新聞大分販売(株) GoldWing 池田▼無記名 = 23件

〈一般寄贈〉8月21日～9月20日

▼北海道 美唄消費者協会▼岩手県 KARI NOMONMA 鈴木明広▼宮城県 遠藤翔子 丹治美佳▼福島県 丹野リリ子▼茨城県 香陵住販(株)▼栃木県 キヤノン(株)宇都宮工場▼群馬県 田口飛翔▼埼玉県 葛西菜 小島サト子 武内亮介 渡部裕子 橋之口恵実古 藪陽一 A S Aふじみ野NT 市川直美▼千葉県 神長

直 木村文子 武井友実 間中由美子 柳澤和子▼東京都 市川佳世子 上河原路津子 河合典子 キューアンドエー(株) 協同組合日本俳優連合 住吉久美子 鳥居薬品(株) 三菱UFJニコス(株) 森山弘子 三菱自動車工業(株) 葛西美沙子 塩野公認会計士事務所 明治安田生命保険相互会社総合代理店業務部 石田明子 尾藤淳 武蔵野ばあば 守屋里美 郵船ロジスティクス(株)▼神奈川県 河内眞生子 三井住友信託銀行相模大野支店 峰尾宣子 和田章 いすゞ自動車(株) エンジン実験第2部耐久実験第2G一同 川崎久美子 後藤八穂子 石黒琢一郎 石関夕子 新保順子 前田仁子▼新潟県 地域密着型複合施設わしま▼石川県 山下由久栄▼福井県 松本健一▼山梨県 濃野あゆみ 吉田美雪▼長野県 菊池幸子▼岐阜県 米津佐織 谷口光歩 伊藤愛紗 伊藤愛紗 匿名希望▼静岡県 (株)遠州急行▼愛知県 宮木このみ 敷島製パン労働組合 岡谷コンサルタント(株) 夫馬比呂子 梶村加子 梶原和美 桜井ひろ子

新海のぞみ 東邦ガス(株)▼三重県 アイスター商事代理店・川口節子 徳永恭 岡田夏海 阪口敏子▼京都府 喜多真弓▼大阪府 カネボウ労働組合 王子茉莉花 手嶋かずよ 広田路子 原サチ子 松本由美子▼兵庫県 仲山香、由紀子、英一&美智子 アイスター商事代理店・藤井由美子▼奈良県 堀田幸代▼和歌山県 橋爪智 坂上加余子▼岡山県 浦上進事務所 鳥越多美子▼広島県 匿名希望▼山口県 山中靖正 山本昌子▼福岡県 NTTファイナンス(株)おまとめ請求センター 全労済労働組合九州支部 日立化成オートモーティブプロダクツ(株)▼匿名希望▼無記名 = 24件

〈友愛援助申し込み〉8月21日～9月30日

▼東京都 小平第六小(小平市)▼神奈川県 湯河原中(湯河原町)▼兵庫県 安室東小(姫路市)▼岡山県 おかやま希望学園(吉備中央町)